



令和6年度



# 菅谷中だより



自ら学ぶ生徒 (自主)  
心豊かな生徒 (敬愛)  
身体を鍛える生徒 (錬磨)

Vol. 10 令和6年12月24日

文責 西川 光治

今年（2024：R6）も大変お世話になりました。

1年で1番長い2学期が終わります。そして、2024（R6）年（辰年）も終わります。年度という意味では、まだ3学期が残っておりますが、1年の締めくくりですので・・・、1年間大変お世話になりました。

4ヶ月間の2学期でしたが、生徒たちは少しずつではありますが、確実に成長しております。

**行事面**では、菅中祭、合唱祭、職場体験（1年）、修学旅行（2年）・・・、どの行事も子供たちの主体的な活動となるよう、事前の準備は欠かせません。教職員は、生徒一人一人の顔を思い浮かべながら、「この行事では、この子には、こんな場面で活躍してほしいなあ」「少し消極的なこの子を、何とか積極的に関わらせたいなあ」等、いろいろなことを想定しながら準備を進めてまいります。私たち教職員は、授業（これが本職！）を行いながら、常に生徒の成長につながるきっかけ作りを模索し、実践しようとしています。

生徒会本部役員、実行委員、学級委員、班長、各担当係のリーダー等、いろいろな役割がある中で、自分の仕事に責任を持ち、教職員と生徒が一緒になって創り上げる「行事」は、1つとして同じではない、オリジナルの行事となっていきます。その過程を見ていると、学校という所は素晴らしいところだと感じます。

**授業面**では、（これが本職！）と書きましたが、教職員は常に授業改善に努めております。時には、外部から指導者に来ていただき、授業での教職員の指導に対して、御指導をいただく場面を多く設けております。理解力のある生徒にはさらに理解を深められるように、分からない生徒にはどうしたら分かるようになるかを工夫しながら、1時間の授業づくりを行っています。しかしながら「学力」は、月日の経過とともに年齢を重ねるように、ただ待っているだけでは向上しません。行事と同じように主体的に学ぼうとすることが1番大切です。テストの点数ばかりに固執してしまう必要はありませんが、「よし、真剣に授業を受けてみようかな！」とか「質問するのは恥ずかしいし嫌だったけど、直接先生に聞いてみよう！」等、考え方を少し変えてみるなど、踏み出せなかった一歩をぜひ踏み出してみてください。勉強が楽しくなると思います。

3学期の授業への取組の変化に期待をしております。

**運動・文化面**では、新人体育大会が行われました。土日など時間外の活動にも皆さん一生懸命取り組み、それなりの成果があったと思います。文化部についても作品展やコンクール等、運動部と同じように活躍しておりました。

今年は、オリンピックも開催された年でしたから、ニュースでもよくスポーツの話題が取り上げられていたと思います。特に、アメリカの大リーグ（野球）で、今年ロサンゼルス・ドジャースに移籍したばかりで、大リーグ史上初のシーズン50本塁打、50盗塁「50-50」を達成した大谷翔平選手。自身初のワールドシリーズを制覇し、2年連続3度目のMVPに満票で選出されたことは、記憶に新しいと思います。技術が一流で素晴らしいだけでなく、人間的にも素晴らしいと学校だよりや全校朝会でも何度か話しました。生徒の皆さんには、同じような記録を残しましょう！とは言いませんが、夢や目標を持ち、それに向かってひたむきに頑張る、そんな2学期であったし、3学期もそうであってほしいと思います。

**最後に**、12月10日、ノーベル平和賞に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が選出され、授与されたことは、本当に喜ばしく嬉しいニュースでした。世界唯一の被爆国である日本から、「人類が核兵器で自滅することのないように、核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう」と代表委員の田中熙巳（てるみ）さん（92）の演説の最後の言葉が心に残っています。平和な巳年となりますように。